

第15回

# 「ソナタ形式」と古典派音楽 ～西洋音楽の歴史と鑑賞（3）～

学習のねらい

モーツァルトやベートーヴェンなど、音楽史を代表する作曲家たちが活躍したのが「古典派」とよばれる時代です。今回は、この時代の器楽曲における音楽形式を特徴づける「ソナタ形式」にポイントを絞って、実際の作品を聴きながら、それがいったいどういう性格をもった形式なのかを体感してもらいます。また同時に、ピアノ・ソナタや弦楽四重奏曲といった、この時代に発展した音楽ジャンルについても学んでいきましょう。



講師  
沼野 雄司

## 「古典派」とは？

西洋文化の中で、「古典」という言葉が使われる場合、そのほとんどは古代ギリシャやローマのことを指しています。大変に豊かな文化が栄えた時代です。ゆえに建築や演劇や絵画では、何らかの形で古代に規範をとったタイプの作品群を「古典派」あるいは「古典主義」とよんでいます。しかし古代の作品がほとんど残っていない音楽の場合、「古典派」とは、18世紀ごろにあらわれ、「後に古典的な規範となった」作品群を意味します。代表的な作曲家は、1732年生まれのハイドン、1756年生まれのモーツァルト、そして1770年生まれのベートーヴェンなどです。

## ソナタとは？

彼らが好んで作曲したジャンルに「ソナタ」と呼ばれるものがあります。ピアノ・ソナタとか、ヴァイオリン・ソナタという名称をみなさんも聞いたことがありますよね。こうした「ソナタ」は、たいていは3つ、あるいは4つの楽章から構成されており、それぞれの楽章が、異なった性格を持っている点に大きな特徴があります。つまり、現代でいえばポップスの1枚のアルバムの中にいろいろなタイプの曲が含まれているように、速いテンポの楽章、遅いテンポの叙情的な楽章、そして少しばかりユーモアのある楽章、といったようにさまざまなタイプの音楽が、まるでチョコレートの詰め合わせのように、1つの「ソナタ」を形成しているのです。



## 「ソナタ形式」とは？

こうしたソナタの第一楽章で、必ずといってよいほど使われているのが、いわゆる「ソナタ形式」です。この形式は古典派時代においては決定的ともいってよい重要性を持っています。というのも、単に「～ソナタ」だけではなく、「交響曲」「協奏曲」「弦楽四重奏曲」など、古典派のシリアスな器楽曲は、いずれも第一楽章がソナタ形式で書かれているのです。その意味では、交響曲は「オーケストラによるソナタ」、協奏曲は「独奏楽器とオーケストラによるソナタ」ということができるでしょう。

この形式は基本的には2つの主題が最初に「提示」され、さらには主題がさまざまな形で「展開」されます（この場合の「展開」というのは、1つの旋律を繰り返したり、転調したり、断片にしたり、ちょっと音程を変えてみたり……という具合にあれこれと手を加えることを指しています）。そして、展開がひとしきり終わると、先の2つの主題が「再現」される、というのがソナタ形式の大きな図式です。実際の放送では、ベートーヴェンの「交響曲第5番」を例にとって、このソナタ形式がどのような魅力を持っているのか、じっくり体験してもらいたいと思います。

### ♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ● 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 | ：作曲 モーツァルト  |
| ● 交響曲第5番 「運命」        | ：作曲 ベートーヴェン |
| ● 弦楽四重奏曲第67番 「ひばり」   | ：作曲 ハイドン    |
| ● クラリネット五重奏曲         | ：作曲 モーツァルト  |